



熱心に、楽しそうに茶摘みに励む川根高校の1年生



地場産業に触れる体験を大切にしたいから

川高生徒が茶摘み体験 一芯二葉と根気がポイント

ゴールデンウィークがあげた5月6日

川根高校の1年生たちは、校内の茶園を使って茶摘みに挑戦しました。汗ばむ陽気の下、生徒たちの楽しそうな体験のもようをレポート。

校舎脇の茶畑で実習を

ゴールデンウィーク直後の5月6日、川根高校では校内の茶畑を使って茶摘み体験を実施しました。

地域の特産物である茶業について、肌で感じてほしいと企画されたこの実習。入学して間もない1年生62人が参加しました。

午後2時、セミナーハウス前に集合した生徒たちは、先生から摘み方の指導を受けたあと、校舎とグラウンドの間にある茶畑に移動。1列に並んで、茶摘みを始めました。

長雨など天候の不順で実施が心配されたこの実習でしたが、ゴールデンウィーク後半は夏日を観測するほど暑い日が続き、茶の新芽も摘採できくらしいに伸びていました。

家で実際に茶摘みを経験したことのある生徒がほとんどでしたが、中には初めて茶摘みを体験するという生徒もいて、互いに教え教わりながら先生と一緒に挑戦していました。

地場産業に触れてほしい

本実習をカメラ片手に守っていた河原崎全校長に、実習の目的などについて聞いた。

てみました。

「実家で農業を営んでいない子たちは、なかなか地元の産業に触れる機会がないと思います。だからこそ、地元の基幹産業である茶業の一端に触れる体験を通して、地元への理解を深めて欲しい、学んで欲しいと思っています。川根高校ではこの茶摘み体験のほかに、椎茸の菌打ち体験や学校林の管理など、地場産業に触れる体験を実施しています。地元にいるからこそ、地元に触れる体験を大切にしていきたいと思っています。」

今回摘採された茶葉は地元の茶工場で製茶され、後日川根高校に届けられるとのこと。「製茶されたお茶を、お土産として配ることができたらうれしいですね」と、河原崎校長は話していました。



終始楽しげな声が響いていた茶摘み体験

広報かわねほんちようではお便りを募集しています。

おハガキ、ファクスなど気軽にお寄せください。☎ (56) 2235 企画課 広報情報室 広報担当まで